

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園(南館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成27年 1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成27年 2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、学童放課後保育が行われています。高齢者の方には、子供たちの声を聞くだけでも表情が柔らかくなり笑顔がみられます。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多良木町の中心地に開設して経年、平均年齢90歳という高齢化とともにADLの低下等により職員体制を厚く配置し、日々転倒防止を目標に気づきあるケアに取り組んでいる。入居者の行動範囲も限られる中で、「若葉園もいいけど、家にも帰ってみたい」とする希望に叶える等入居者の今できることを引出しながら実現させている。今年度は“最期までこのホームでの生活を”と望まれる家族の思いに応え、職員の不安感を払拭すべくターミナルケアについて研修を重ね、協力医療機関や家族とホーム側とがスクラムを組んで支援している。偲びのカンファレンスにより家族や職員の対応・ケアや思いの検討等「職員が成長した1年でした。」と施設長は振り返っており、職員の志向の高さが表出している。施設長を中心として、職員同士の意思の疎通の良さや風通しの良い運営体制であり、入居者と職員とが地域の中で和やかに生活されているホームである。

に		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、毎週月曜日の朝礼にて唱和し、サービスの向上に努めている。	開設時の思いである理念6項目を継続し、掲示や唱和により意識向上に努め、理念に基づいた年間目標・職員個々の目標等毎月の会議の中で振り返っている。重度化により職員体制を厚く配置し、「安心感」の醸成として家族・医療機関等との連携や職員も研鑽を積み、残存能力の維持に向けた支援等具体的な支援の中に理念が反映している。また、地域密着型として地域高齢者も視野にした運営に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れもし、交流は確実に増えている。	共生施設という環境を生かした交流(子どもたちやボランティア等や、地域行事(えびす祭りや農村商工祭等)に出向きながら住民との交流に努めている。また、散歩の際には付近住民とのふれあいを積極的に行い、散歩する地域住民からも良く声かけされ、養護学校からの花の寄贈等入居者が地域の一人として暮らし続けるための積極的な活動の成果が表れている。敬老会での認知症啓発や毎年行っている若葉園杯のグラウンドゴルフ大会を地域高齢者の要望(台風により運動会が中止)により2回開催したり、中・高校生の職場体験の受け入れ等地域に密着しながら、ホームの機能を発揮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会で認知症のことを挨拶に必ずお話し興味を持っていただいています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話もさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年度は看とりについて園側、利用者家族の意見、要望等について話しています。	小規模多機ホームと合同で開催する運営推進会議は、グループホームと小規模多機能の違いや各事業所の情報をもとに話し合いが行われている。外部評価結果についての意見交換や研修・個人情報保護の取り組み等状況を発信し、今年度はターミナルケアでの質疑応答等充実した会議が開催されている。委員からの質問を次回のテーマとする等この会議を有効に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、低所得者の入居料の減額の相談等して頂きました。	管理者は役場に頻りに足を運び、町の福祉助成金等入居者の経済面から相談したり、電話等を通じて新情報等を得ている。球磨村民生委員の視察や傾聴ボランティア研修の受入れ等への協力、ケアマネ業務として介護認定代行時等情報交換をサービスに反映させている。毎回運営推進会議への参加が得られており、行政との良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。リビングには事故〇の表示をし、転倒防止のケアに努めています。	今年度は家族からの提供である身体拘束及び虐待防止マニュアルを基に話し合いや自己チェックリストにより個々のケアを振り返っている。日々転倒防止を目標に記録を取り、居室での転倒防止にリビングでの生活を中心としたことで安全な生活に繋ぐ等工夫しながら拘束の無いケアを実践している。「拘束・虐待を絶対しません やりません」とする宣言を掲げ、管理者は入居者の不穏対策として気づきを持つ事や納得されるような声かけを徹底するよう指導されており、全職員が拘束の弊害を正しく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、質問等受付し余裕を持って契約をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。	入居者と職員との馴染みの関係が構築し、良く会話を交わしながら要望等を聞き取りしている。家族には何でも話して下さるようにとしやすい雰囲気を作っている。訪問時や電話等で要望等を引き出しており、家族からは感謝の言葉が寄せられている。管理者及び担当職員は毎月報告書・献立・写真等の送付により情報を発信し、家族も花を持ち届けたり、食事介助を行われる等家族との良好な関係が築かれている。運営推進会議も問題提起の場として生かされている。	現在家族会が中止されており、再開に向けご尽力いただきたい。運営推進会議の中に食事を共にする意向もあり、ランチミーティング等も地域委員のみならず入居者・家族とのコミュニケーションの場として今後の展開に大いに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、リーダーミーティングの際には質問、要望等を聞いている。	代表も参加される朝礼や管理者及び各館リーダーは職員との日々のコミュニケーションを図り、各館毎のミーティング時には新人職員の意見が出し易いよう工夫している。入居者の状況に応じ、時間変更の提案を検討したり、季節に応じた入浴時間の検討等職員の意見をもとに合議している。又、毎月リーダーミーティングにより全体の課題を話し合っている。管理者と職員との風通しも良く、ユニットを超えた協力関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退帰時間の厳守を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、ボランティアによる音楽会に近隣の施設にも参加を呼び掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取を参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、壁画も皆さんにお手伝い願いました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何とも言える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、祭り等に参加したりする。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。	かかりつけ医の継続や家族総出での訪問、遠方からの帰省時には記念写真を撮る等家族との関係性やその機能が途切れないよう支援している。高齢者世帯の墓参りや法要参列に職員が支援したり、行きつけの美容院の継続、入居者にとっては見慣れた場所である市房ダム周辺での花見等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがえて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。	アセスメントでの情報や日々の会話の中で把握、職員は一人ひとりと向かい合い、分かり易く説明する等、出来る限り本人の意思を確認している。意思疎通や発語等の困難な場合、言動や表情からの推察や言葉にならない声にも耳を傾け、トイレではないか等判断したり、家族との話し合い等本人本位になるよう努めている。「若葉園もよかけど、でも家にも帰ってみたい」という願いに仏様参りを職員同行で実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、少人数でのカンファレンスを行い、その結果を職員全員に引き継ぎをし、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。	本人・家族の要望や毎月のミーティングでの話し合いや、3ヶ月毎のモニタリングにより達成度を見極めている。退院に向けたカンファレンス(家族・病院の看護師や相談員など入居者が関わり関係者及びホーム側)により新たなプランを作成したり、介護認定更新前には全職員で話し合い新たなプランを作成している。具体的且つ詳細な個別プランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、緊急時には往診などの対応をしていただいている。看取り時には先生が毎日のように往診して頂いています。	協力医の存在は入居者のみならず職員の心の拠り所となっており、定期往診や受診・予防接種での訪問以外に、体調が気になる時は毎日電話をもらったり、日に何度も訪問して頂く等連携体制が構築しており、入居者全員のかかりつけ医となっている。又、専門医等の受診をホームで対応したり家族と同行する等、個々に応じた医療受診を支援している。職員は転倒防止に努め、異常の早期発見や早めの受診に取り組み、その都度家族と話し合ったり、毎月の状況報告書に健康状態を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。必要時には医師より家族に説明をおこなってもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。	入居時に重度化や終末期に向けたホームでの対応を説明し事前確認書で入居者・家族の意向を確認している。又、体調変化時には医師の説明によりターミナルの希望を確認し、医療への依存度次第ではホームでの看取りを支援している。幾例かの尊厳ある看取りを主治医や家族と共に支えた経験は、看取り後の職員アンケートや研修に繋がりホームとしての成長アップや家族との信頼感の深まりとなっている。職員は夜勤体制の強化や家族の不安に応え、本人が人生最期に会う人として心を一つに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、10日に一回防火点検を行っている。	消防団をはじめ地域参加の防災訓練を実施し、隣接する製材所にも参加依頼の声をかけをしている。その他にも半年毎の消防設備の点検や、0のつく日はホーム内外を5項目に亘りチェックする等火災予防への意識付けとし、防災マニュアルを目につくところに掲示している。ホームは町の福祉避難場所の指定を受けており、AEDの設や、非常時の備蓄に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。	入居者一人ひとりの生活歴を把握し誇りを損ねない対応に努め、職員は身体拘束の勉強会の中で言葉づかい等についてもチェックしながら、お互いに注意喚起し合える環境を作っている。声のトーン等にも配慮し、トイレ誘導時等のプライバシー確保に取り組み、地域の中でもホーム職員としての自覚を持ち行動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向により衣類の決定をしてもらったり、買い物時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをしてもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせた献立をしている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にしている。また隣に利用者の方の料理をとって食べる方が見られるのでお膳を使って自他の区別をもらっている。	入居者の嗜好や季節に合わせた献立を各ユニットで調理し、入居者も野菜の皮むきや下ごしらえ等に関わりながら食事作りに参加している。入居者の状態に合わせた形態での提供やカロリー食を利用したり、苦手食材には代替を準備しながら職員と一緒にの会話しながらの食事時間が持たれており、できる限り自力での摂取に努め職員は不足部分を介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、出来ない人は職員が対応している。週に2回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動などで判断している。	個々のパターンを把握し時間や様子を見ながらトイレに誘導している。又、昼間は独歩でトイレに行かれる方も夜間は車椅子やポータブルトイレを使用する等安全に配慮し、排泄用品を検討し昼夜で使い分けたり、二人介助での対応等一人ひとりに合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫やヨーグルトの摂取等してもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいている。腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調の合わせて隔日が入浴をして頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。	バイタルチェックで入浴可否を見極め、希望に合わせて間隔が空かないように支援し、毎日の希望にも応えている。又、夏場や冬場で入浴時間を変更したりシャワー浴や足浴を取り入れ、季節に合わせたゆず・しょうぶ湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ天気の良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。バスハイクは高齢のため少人数での桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等行っています。	ホーム周辺は環境に恵まれ、入居者の体調や状態に合わせいくつかの散歩コースを設定し車椅子の方も出かけている。又、弁当持参での花見や地域の祭り見物・観音様巡りに出かけた時、受診時にドライブを楽しんでいる。家族の来訪時には一緒に外食等に出かけられる方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているため本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者や職員の大作である。利用者の家族の方が定期的に生花を持参いただいている。	手入れが行き届き経年を感じさせないホームは、玄関やリビングの花々や雛飾りに季節感が溢れ、入居者と共に作成した貼り絵も季節毎の大作となっている。テレビ前のソファが寛ぎの場所となり、トイレや浴室にはポジショニングバーを備え付け安全性に配慮している。日差しの温かみを受け、静かな環境の中に温湿度管理を行い異臭もなく快適な場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持ったタンス、椅子等、また必要時には加湿器等も準備をしている。	個々に合わせタンスや椅子・テレビ等を自由に持ち込み、家族や担当職員と共に部屋作りがされている。趣味の鉢植えが置かれたり家族写真を飾ったりとその方らしさが表れ、ラジオを聴きながら部屋で過ごされる等自由に使用されている。業者によるベッドクリーニングを予定しており、清潔さに配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム若葉園(北館)		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537		
自己評価作成日	平成27年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成27年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンド等が集まり、環境にはやさしい雰囲気があり利用者の皆様のケアには大変すばらしいところです。同敷地内に小規模多機能ホームわかば園があり、敬老会、運動会などお互いに行き来し交流を深めています。また小規模のホームの隣には共生施設があり、放課後学童保育が行われています。高齢者の方には、子供たちの声を聞くだけでも表情が柔らかくなり笑顔がみられます。学童の子供たちは、夏休みや行事があるたびに駆けつけてくれ、高齢者とのふれあいを大切にしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーのよく目に付くところに掲示し職員一人ひとりの目環境に配慮しているとともに、ミーティング時に理念に沿ったさびすが出来ているか話し、サービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り等に参加したり、学童保育や共生施設の利用によりグループホームにも出入りが増えてきている。町内はもとより、町外からの体験学習の受け入れも、交流は確実に増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若葉園グラウンドゴルフ大会を年、2回行い、認知症のことや若葉園の事をお話しています。また、地区の寄り合い等に参加した時には、短時間の認知症の話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは行政、地域包括、区長、民生委員、家族代表、利用者代表と多彩で、全員の方を指名し意見を述べてもらいます。今年は看とりについて園側、利用者家族の意見、要望等について話しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの情報等は直ぐに連絡をいただいています。園からは、電話等でも報告を聞いて頂いたり、また、低所得者の入居料の減額の相談等して頂きました。かかっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を第一に、身体拘束、虐待の勉強会を行い、実践に繋げている。また、外出の希望があれば職員付き添いで散歩をしている。夜間施錠が基本としている。リビングには自己0の表示をし、転倒防止のケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことは運営推進会議や社内研修時に報告をし、虐待に対する考え方を認識してもらっている。また、手のあざ等介護際につく内出血等、介護の工夫も話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人が自らの意思を表現できるように、感情や顔の表情に注意しながら支援をおこなっている。成年後見制度の利用はないが、研修会に参加し、社内ミーティングにて制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し、質問等受付し余裕を持って契約をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方とコミュニケーションをとり意見を聞きだす事に努めている。また、管理者が面会の家族に直接対話し、要望等伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体朝礼の時に代表者は経営や運営の意向を伝えまた、リーダーミーティングの際には質問、要望等を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の能力を出せるような研修参加や環境を作りを行い出来るだけ残業等はしないように退帰時間の厳守を指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもとより資格取得の費用を全額会社負担とし、仕事に対するやる気と自信を持ちながら業務に就けるように支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ではグループホーム協議会が組織され2ヶ月に1回の研修会と、12月には忘年会が開催され、交流も盛んである。また、ボランティアによる音楽会に近隣の施設にも参加を呼び掛けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所まえの聞き取りを参考に本人と家族の不安、要望を聞き取り、安心して生活できるようにカンファレンスにて介護の統一をはかりプランに反映をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方に園内見学をしてもらい園での雰囲気を感じてもらっている。月末に一月分の利用者の方の生活、体調、行事等、担当者が書面にて報告をしている。病気、事故等はその都度連絡を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後、暫くは頻繁に連絡を取り合ったり面会を促したりして利用者の方が一日でも落ち着き、早くなれていただくように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(掃除、洗濯物干し、たたみ野菜の皮むき、刻み)などできることを職員と一緒にしたり、他利用者のお世話をしている場面も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の方をご案内し、利用者、家族、職員の信頼関係をつくりお互いに何でも言える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には記念写真をとり双方に渡し、再度の来園をうながしたり、出身地域へのバスハイク、祭り等に参加したりする。親戚関係の集まりの時は家族または職員が付き添いで出かける支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や意向を汲み取り、席の配置をかんがえて気分良く生活をしていただいている。利用者間のトラブルの際は職員が直ぐに間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的に病院、施設を訪問し面会をし、そのたびに家族との連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者は入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も必要時にカンファレンスを実施し本人の意向の把握するようにしている。意思の疎通が困難な場合は家族との意見交換や入居後の行動、表情などで判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族、CM等のアセスメントにて生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取り把握をしている。また面会のときに職員からの生活パターンを再確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察記録、情報交換により把握をしている。また本人に出来る事はして頂こうと声掛けするものの無理に作業、レクリエーション等に誘わないようにし、様子を観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向を大切に、介護の統一化をするため、少人数でのカンファレンスを行い、その結果を職員全員に引き継ぎをし、本人に合うケアプランを全員で検討し作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践にあたり、本人の変化を直ぐに気づく様な洞察力を養いながら、職員全員が記録により情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅希望の利用者が家族の都合で向かえにこれないとき自宅までの送迎や、個々の買い物などの支援等をしている。また、法事等の時は付添にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけたり、非常時の対応について消防署、行政に指導を仰いだり、共同訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に密な連絡、連携体制がとれており定期的にホームを訪問、緊急時には往診など日曜日でも対応をいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の変化を見逃さないように、気付いた情報を看護師に伝え、利用者が適切、迅速に処置を受けられるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状況を医療機関に報告し、入院時には看護師、担当医に治療状況の把握をしている。また利用者に安心感を与えるため、職員が毎日のように面会に行き、声掛けや食事の介助など支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、契約時に出来ること出来ないことを家族に伝えている。またホームで出来る支援を家族、かかりつけ医、管理者、職員と協議し医師の指示の下に支援をしている。必要時には医師より家族に説明をおこなってもらっている。職員に対し終末期の介護支援の講習をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、協力医を招き講習をおこなっている。また、緊急時に備えマニュアルをよく見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加を呼びかけている。マニュアルの掲示、説明を定期的に行っている。特に当園は水害が考えられないため、10日に一回防火点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重やプライバシー保護は家族にも十分に説明し、利用者の方が傷つかないような声掛け、声の大きさなど特にトイレ誘導等羞恥心を損ねないよう対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすいような雰囲気をつくり、ゆっくりとした時間の中で希望を聞き、自ら決定できるような促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、誘うときも無理に誘うことなく、何をしたいか希望を聞き自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	本人の意向により衣類の決定をしてもらった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	り、買い物の時も本人同行し購入してもらっている。行事ごとに化粧や飾りなどでおしゃれをしてもらっている。美容室も送迎の対応もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に嗜好調査を反映し、季節や行事に合わせてたりしている。利用者の方が〇〇が食べたいと申し出があると急に献立を変えることもある。また下ごしらえや配膳、洗い物等職員と一緒にして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取量が少ないときは、かかりつけの医師に相談し高カロリー食品で対応をしている。また水分の摂取は利用者の好みの飲み物で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを各自して頂いているが、出来ない人は職員が対応している。週に3回ほどの入れ歯の消毒をおこなっている。また協力歯科医師も定期的に口腔内のチェックに来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに定期的な声掛けを周りに配慮しながらトイレ誘導している。また本人の様子や行動などで判断している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排泄状況を把握し水分補給、適度な運動に実施をしている。料理の工夫やヨーグルトの摂取等してもらっている。またかかりつけの医師の指示をいただいている。お腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望、体調の合わせて隔日で入浴して頂いている。希望で毎日入浴可能。また菖蒲湯、ゆず湯など季節の湯を楽しんで頂いている。入浴は職員2名体制で事故がないよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、昼ね等時間が長い人は昼夜逆転にならないように気分転換に散歩に誘っている。夏、冬の室温の調整もこまめにし安眠を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については説明書を参考に服薬の支援をしている。かかりつけの医師に薬の見直しをお願いし、量を減らしてもらっています。副作用の症状等あれば直ぐに医師に報告し改善をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の持てる能力を生かし、自分なりの役割分担を決めてもらっている。褒めることや御礼をいうことでやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて天気が良いときには近くの公園への散歩や物産館への買い物の手伝いをしてもらっている。桜の花見、菖蒲の花見、お祭り、観音様参り、紅葉見学等多彩です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小金額の所持は家族の合意で認めている。また、預かり金として小遣いを預かっているため本人希望のときは買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいているがあまり長話にならないようにしている。暑中見舞い年賀状の作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには職員が持ってきた生花があり季節感をだしている。また利用者は光、音、温度に敏感であるため常に配慮をしている。壁には工作がしてあり利用者と職員の大作である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には小人数で腰掛られる作り付けのベンチがあり、休憩しながら利用者同士でお話をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。自分が親しみを持った筆筒やドレッサーなどを持ち込み環境の変化を抑えている。壁にも写真等たくさん貼ってもらっている。必要時には加湿器の準備もある。仏壇の持ち込みもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂などに手すりを付けて安全性を高めている。また部屋にはネームをつけたり、便所、浴室等のプレートがある。		